BINOS vol.14：87 - 88 (2007)

巣で雛が死亡時のオオタカの行動観察記録

森　要[1]

Kaname MORI：Observation records of Northern Goshawk when Chick died in Nest

はじめに

2004年5月、湘南地区でオオタカの巣で雛が死亡し、その時の親鳥の行動が筆者と他1名の観察員により、監視カメラと営巣木への立入りで観察されたので報告する。

観察内容

1　5月11日　18時30分

雛3羽（孵化後2週間）が巣に座っている。♀親は巣に立っている。特に異状は認められず、夜になる。

2　5月12日

4時30分　薄暗い中、♀親が巣に立ち上がり、動かぬ雛の嘴を自分の嘴で挟み、強く何度も雛を引っ張り上げる。数分続く。

4時39分　♀親はその雛を食べ始める。残りの雛2羽は伏して、全く動かない。

4時50分　♀親は食べていた雛をくわえて、巣から運び出す。

4時56分　♀親は2羽目の雛の死体を巣から運び出す。

5時01分　♀親は3羽目の雛の死体を巣から運び出す。

5時04分　♀親は巣に戻る。

5時05分　♀親は巣から出る。

～6時30分　巣に親は戻っていない。監視カメラで捉えられないので、営巣木へ立入る。

8時～8時15分　♀親は雛の死体（頭が落されている）を巣に持ち帰り、巣の中で食べる。

8時15分　♀親は雛の死体を巣から運び出す。巣内に蝿が集まっている。

10時19分　♀親が巣にやっと戻ってくる。

♀親は巣から2、3分の所へ雛を運び出したが、その場所は発見できなかった。その後1箇月程、オオタカの番はこの営巣地に滞在したが、繁殖活動の再開は無かった。

まとめ

♀親は動かぬ雛に親として9分間対応したが、その後、餌としてして扱った。夜間に同時に全

1：〒252-0802　藤沢市高倉507-17
キーワード：オオタカ・雛
Key Words：Northern Goshhawk，chick

ての雛が死亡した原因は特定できず、ここでは論じない。本観察は密猟監視のための監視カメラの映像より可能になった。監視カメラ提供の行政関係者、その監視当番者に謝意を表する。